

お知らせ

地域協議会からインターネットを利用して「メールマガジン」にぎわい通信」を発信しています。技術研修会や広報誌の発行案内および地域活動などの情報をいち早く皆さんにお知らせし登録者の方には大変好評をいただいております。個人情報の管理は適正に行い、本対策にかかる情報配信以外の目的には一切使用いたしませんので、是非とも地域協議会までご連絡ください。

Mail

「農村まるごと」に関するご意見・要望、今年度の活動の反省など何でも結構ですので皆様の声をお聞かせ下さい。この情報誌や、協議会のホームページなどでご紹介させていただきます。

編集後記

3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震は近代的な観測が始まった1970年代以降、世界で2番目の規模だったそうで、まさに未曾有の災害といえると思います。被災された方に、心よりお見舞い申し上げますとともに、余震などによる二次災害や原子力発電所の事故などで、これ以上被害が拡大しないことを切に願います。

(A.W)

わたしたちもがんばっています！ パート2

敏満寺農村まるごと保全対策協議会  
松居 亘 (多賀町)

わたくしたちの住む敏満寺は多賀町の南西部の位置にあり、敏満寺という地名はむかし当地で栄えた「敏満寺」という古い寺の名前を受け継いでいます。今はその寺の面影も残っていませんが、その時代のものが文化財として、あちこちに保存され、このかけがえのない文化財は私たちの村に在りどりを与え、誇りをもたせてくれています。

敏満寺農村まるごと保全対策協議会では、本年度の取り組みとして、テーマを「人も生き物も元気な里山プロジェクトIN敏満寺」として、農村地域の水田魚類保全による地域の活性化を図るため、「魚のゆりかご水田事業」に取り組みました。内陸地ではじめての取り組みということで、とまどいはありましたが滋賀県農政水産部の懇切丁寧な指導のもと行うことができました。5月12日に、県・町・地元役員・水田所有者が魚道設置や管理のあり方等について打ち合わせを行いました。



せを行いました。

5月19日には1基目の魚道がモデルとして県が中心になって設置いただき、5月22日に役員総出で2基目の魚道の設置作業を行いました。大門池から排水路を魚が遡上し、魚道を通って水田にうまく入ってくれるのか不安をかかえての取り組みとなりましたが、県の職員さんの「大丈夫」のお言葉に安堵いたしました次第です。その後は、水の管理、施肥の抑制、魚道の点検などを行いました。6月1日に役員で勉強会を開催、6月末に中干しによる落水を行い、魚の生息調査が行われました。ここには紙面の都合で詳しいことは書けませんが一定の成果がありました。7月10日には子供会による現地観察会も実施し、自然との共生について学んでいただきました。今年も3月下旬に魚道の設置作業を行う予定です。

新たな発見・出会いを求めて取り組んでまいりたいと考えています。



滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

本協議会は、活動組織への支援や、採択手続き、交付金の交付事務などを行っています。書類作成にかかる参考資料や活動事例などの情報をホームページでお知らせしています。

<http://www.shiga-nouson-marugoto.com/index.html>

Email: [kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com](mailto:kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com)

農村まるごと 検索

★にぎわう農村フォトコンテスト入選作品★



「大きなあれ！」  
石田 英雄さん(野洲市)

「命とのふれあい」  
糟井 信吾さん(東近江市)

「何がとれるかな～」  
田中 信弘さん(近江八幡市)

まるごとだより 第18号

にぎわいある農村をみんなで守り育てよう



目次

春先の農作業による濁水の流出を抑えましょう！

第3回農村まるごと保全技術研修会を開催しました。

わたしたちもがんばっています。パート1「中之郷農村まるごと保全隊」 (日野町)

竜王町「まるごと」紹介 (竜王町)

わたしたちもがんばっています。パート2「敏満寺農村まるごと保全対策協議会」 (多賀町)

発行 (2011.3)

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

〒521-1224

東近江市林町601番地  
水土里ネット滋賀内

電話 0748-42-4806

FAX 0748-42-5574

Email: [kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com](mailto:kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com)

春先の農作業による濁水の流出を抑えましょう！

代かきや田植えなどの春先の農作業による濁水流出防止の取り組みは琵琶湖への負荷を抑えます。効果的な取り組みとするには、地域の皆さんの協力が必要です。

水路溝畔の補修補強による確実な漏水防止



農地の機能診断等により水路溝畔の漏水状況を把握します。



畦シートの設置により漏水を防止します。



畦塗り機により溝畔を補強します。作業は3月中下旬から4月上旬が適しています。

各水田における適正な水管理



用水の節水管理や濁水の流出がないか、見回ると共に作業への啓発をします。



透視度調査により、取り組みの効果を把握し、活動に役立てます。



堰上げ式の水田魚道は、農業濁水の流出防止にも役立ちます。

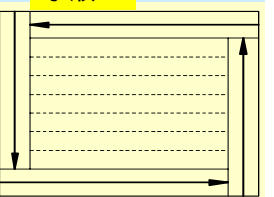
《浅水代かきの方法について紹介します》

浅水代かきは、水田ハローを使う場合、土が7割から8割見える程度の水で、畦に沿ってゆっくり水がこぼれないように、周囲から代かきを始め【額縁代かきと呼んでいます】(手順)、続いて内側の代かきをします。(手順)

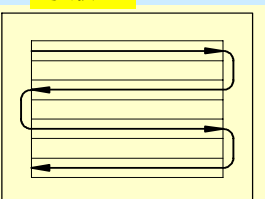
【この方法には以下のような効果があります】

浅水で行うため、田植え前の強制落水の必要がありません。作業効率が良く、作業時間が短縮されます。額縁代かきにより、まず、畦の穴をふさぐことができ、畦からの漏水を防げます。農業排水の状況を確認するため、透視度調査やパケットテストを実施し調査結果をみんなで共有することが大切です。

手順



手順



## 第3回『農村まるごと保全技術研修会』を開催しました。

平成23年3月2日（水）近江八幡市岡山コミュニティセンターにて、『第3回農村まるごと保全技術研修会』を開催しました。来年度から始まる、「向上活動支援交付金」に関する研修会で、事業に取り組む意欲がある活動組織や集落の代表の方、市町・土地改良区の担当者の方など約90名の参加をいただき盛大に開催することができました。



室内研修の様子



機能診断研修の様子

## わたしたちもがんばっています！ パート1

中之郷農村まるごと保全隊 代表 市田 文明（日野町）

当地域は日野町北部の佐久良川と前川が合流する重要な位置にあって、一部に未整備田があるものの準平坦な水田が広がる緑豊かな田園集落です。

この美しい農村の景観や環境は今まで農業者を中心として助け合いの力によって守られてきましたが、当集落においても近年の少子高齢化や離農者の増加によって、老朽化した農業用施設を維持管理していくことは非常に困難な状況になってきています。

このような状況のなか、この「農村まるごと」を契機に自治会、農業組合、営農組合、子ども会等を構成員として『中之郷農村まるごと保全隊』を組織して農家、非農家を問わず、みんなが力を合わせてできることは自分たちでやっていこう、と平成20年度から取り組みを始めました。

取り組み当初



は事業への参加によって負担が増えることに十分な理解が得られませんでした。基礎部分にあたる水路の泥上げや砂利補充などはもともと「耕地の溝掘り」といって、農業用水が各水田に有効に行き渡るよう地主、耕作者が協力し合って4月上旬前後に用排水路の泥上げ等同様のことを行っていましたので徐々に理解が得られ、区民のまとまりができてきました。

その後6月から7月には排水路の泥上げ、景観活動の取り組み、また11月は2回にわたって獣害防護柵の保全管理や施設の改修、農道の砂利補充を中心に毎年行っています。



そのほか今年度は夏休みに入った8月8日の日曜日に子ども会員とその親御さんを中心に46名で「水環境学習クルーズ」と銘打ち、「どうして水が田んぼにくるのかな？」、「びわ湖の水はきれいかな？」をテーマに日野川流域土地改良区の協力を得て勉強会を開きました。子どもたちは蔵王ダムの中に入ったことや揚水機場の大きさに驚いた様子でした。猛暑中の体験で「水を大切にすること」を身につけてくれたことと思います。

今後はこの事業の取り組みでひとつひとつ集落の連帯感を高め、コスモスやひまわりの植栽でみんなが楽しくなるような景観形成活動を重点に取り組んでいきたいと考えています。



## 竜王町「まるごと」紹介

竜王町 産業振興課

竜王町は、滋賀県の東南部湖東平野に位置し、東に雪野山、西に鏡山という2つの山に囲まれています。この山々は竜神が祀られていたことから「竜王山」と呼ばれ、町名の由来にもなっています。また、名神高速道路竜王インターチェンジを核とした交通網整備により工業および商業の活性化が図られていますが、水田が町総面積の約30%を占めており、農業のまちとしての側面も持っています。



現在、竜王町では、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」に取り組んでいる活動組織は23組織で、農振農用地面積の約78%にあたる1,061ヘクタールで活動が行われています。

共同活動では、農業者を中心に各農業施設の点検および機能診断を行い、適正な維持管理に努めていただいています。農用地・農業用水などの資源の適切な保全管理として、長年手が付けられていなかった開水路の泥上げが行われた活動組織では、施設が再び利用できる喜びと新たな連帯感が生まれたとの声も聞くことができました。



また、近年増加している獣害に対しても、獣害防護柵の修繕等により農用地および施設の保全を図られています。景観形成の取り組みにおいては、自治会や子ども会を含め地域一体となり、ひまわりやコスモスを植栽され、花が咲くころに意見交換会などを開催されることにより地域の交流を深められています。

一方、営農活動では、20組織、約414ヘクタールで取り組みが行われています。水稻を中心に、飼料稲、大豆、そば、もも、ぶどうなどの環境こだわり農産物を栽培され、こだわり農産物の生産を通じて環境負荷低減に取り組まれています。生産された農産物は、町内の学校給食で使用されているほか、道の駅、産地直売所などで販売されています。

「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」も4年が経過し、最終1年を残すところになりました。最終年度



は、各活動組織において体制整備構想として、将来どのような形で自然豊かな農村環境を子どもたちに残していくかを話し合っていたいただき、より良い形で次世代につなげていただけるよう支援を引き続き行ってまいりたいと考えています。



## お知らせ

「魚のゆりかご水田プロジェクト」拡大キャラバンを実施中！

琵琶湖や河川から田んぼに、魚類が産卵のために遡上できるように農業用排水路に間伐材等を用いて魚道を設け、かつての命あふれる田園環境の再生と生きものと人が共生できる農業・農村の創造を目指しています。

みなさんの地域まで、『ゆりかご水田』の素晴らしさを、お知らせにあげます。

「話だけでも聞いてみようかな」、「うちのお米に付加価値を付けたいな」などと、お考えの方がおられましたら、**水土里ネット滋賀（表紙参照）**までご連絡をお待ちしています。



子ども絵画コンクール入選作品  
『おじいちゃんの野菜は世界一』  
木村 健太郎さん（木戸小学校）



子ども絵画コンクール入選作品  
『田んぼの世界』  
吉田 樹さん（下田小学校）